

3月のひとこと

今月は、5日から7日にかけてグアナファト研修に行ってきました。今回はグアナファト研修を中心に書いていきたいと思います。

3月の目標

1. グアナファト研修でいろんなことを吸収する。
2. 日本人学校について理解・知識を深める。
3. 以前から興味のあった「継承語」について調べてみる

ふりかえり

1. 日本語学校・日本人学校、そしてマツダのメキシコ支社に訪問して、いろんな面白い発見がありました！
2. グアナファト研修でレオン日本人学校を見学できただけでなく、リセオの日本人コースで教鞭をとられていた先生にお話を伺うことができました。2校とも特徴が全く異なっていて興味深かったです！
3. 今月末に学部生時代に継承語を研究されていた方のワークショップに参加しました。これからの私の研究テーマのヒントを得られた気がします。

最近の心境

今月は渡墨当初からずっと仲良くしてくれていた友人とのお別れがたて続きにあり、とても悲しかったです。1人はひとまわり年上の韓国オンニ、そしてもう1人はいつも一緒にいた同じ年のメキシコ人の女の子。2人とも本当に尊敬していて、大好きです。彼女たちからいろんなことを学ぶことができました。いつも明るくて笑顔を絶やさない韓国人の彼女を見ていると、こんな30代になりたいなと思えました。そして、メキシコ人の彼女からは、メキシコ人だからといって皆がお祭り騒ぎが好きという訳ではないこと等、1対1で向き合って初めて彼女という人となりを知ることができました。向き合うことで、自分の中にあるステレオタイプを認知することができました。言語は相手を知るため、自分の思い・考えを伝えるためのツールにしかすぎず、心から伝えたい・理解してほしいという想いがいかに言語の向上に直結するのか、ということも彼女とかかわることで身をもって知りました。

3月のハプニングBEST5

1. 指輪をトイレに忘れたことに気づき15分後に戻ったら盗まれていた
2. 外で遊んでいたら盛大に転ぶ
3. グアナファトで買ったフクロウのアレブリヘ（置物）を落として割ってしまう
4. クラス選択、誤作動で希望のクラスに入れず
5. 変な人にまた絡まれる

今月のボランティア

所属しているボランティアでは、今月から子どもたちオリジナルの「生命の樹」を作るプロジェクトが始まりました。生命の樹は、メキシコを代表する民芸品のひとつです。今回は子どもたちが自らのアイデンティティ（好きなもの）を表現するということを目的に取り組んでいます。使用する材料や作り方も工夫しながら、楽しそうに取り組んでくれました！



グアナファト研修

・1日目：ミイラ博物館（Museo de las Momias de Guanajuat）、日本語授業見学

1日目は到着してすぐにミイラ博物館へ行きました。グアナファトはスペイン植民地時代、鉄鉱山からの採掘が有名で、そこで働いていた方や家族のミイラが展示されています。この博物館で特徴的なのは、生まれてすぐに亡くなってしまった赤ちゃんも展示されているということ。どの赤ちゃんもキリスト教の神様が着ている服や装飾を身にまとっています。その中の1体は母親が現在も存命しており、来館して時折会いに来るそうです。また、写真①のとおり、現在ミイラたちはショーケースの中に保管されていますが、以前はむき出しのまま保管されていたそうです（写真②）。記念にミイラに直接キスをする猛者もいたそうです。恐ろしいですね…。

その後、グアナファト大学の外国語学校の中にある日本語クラスを見学しました。学習者さんの中には、日本に住んでいる孫と会って話すために日本語を学んでいる方もいて、一生懸命に覚えよう・話そうとしている姿にとっても心があたたかくなりました。



写真① 現在のミイラ展示



写真② かつてのミイラ展示



写真③生徒のプレゼンテーション

・2日目：日本語を勉強している学生とともにマツダメキシコ工場見学、日本人学校見学

マツダメキシコ工場では、車体の溶接工程を見学させていただきました。メキシコ工場では、目標の1つに工場の自立を掲げ、工場内部にも従業員たちが自ら提案したものが採用されています。そのような従業員単位の小さなところから「自立」の促しが行われていて、とても興味深かったです。工場見学では、部品置き場や特定の機械がある場所を「バルク」や「Tortillería」と表示されていました。これは従業員の皆さんが話し合っただけで決めたそうです。このように、自分たちの仕事場に愛着をもてる工夫がされているのもまた1つの自立へのステップなのではないかと思います。また、メキシコ工場の変遷を聞き、車体をより多く生産するための効率的なルートや部品の運搬方法等、日本だと「当たり前」にされていることがメキシコだと当たり前ではないということに気づきました。そうした効率重視で几帳面な日本の働き方と、咄嗟のトラブルにも臨機応変に対応できるメキシコのよいところを掛け合わせて働くことでより働きやすく、成長できる工場になるのだと考えました。



←写真④現地の学生と一緒に

写真⑤日本人学校授業の様子



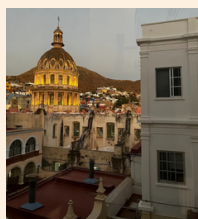
その後レオン日本人学校を見学しました。校長先生と教頭先生にお話を聞くことができました。大学の講義で日本人学校について学びましたが、実際に学校の様子を見ることはとても興味深かったです。レオン日本人学校では生徒のほとんどが駐在の両親についてメキシコに来ており、生徒数は普通の小中学校に比べるとかなり少なく、中学生になると高校受験を控えることもあり、学年が上がるにつれて人数は減少傾向にあります。しかし、日本人学校は公立学校と違い、補助がないため、生徒数を確保することが重要です。メキシコという国柄、安全面での不安が先立ち、駐在でメキシコに来ている方には母親・子どもは日本で生活しているケースが多いそうですが、それでもメキシコの良さを伝えることでもっと家族でメキシコへ来てくださる方を増やしたいとおっしゃっていました。また、課題である安全面を保証するためにグアナファト警察は学校及び通学バスを無償で警備しているそうです。それに伴い、学校行事でも生徒がグアナファト警察の方への感謝を述べる機会が設けられています。少しでも安心して学校生活が送られるように、グアナファト州と学校が連携して取り組んでいることがとても印象的でした。

・3日目：レオン大使館訪問

最終日はレオン大使館を訪問して、総領事の青山様とお話をさせていただきました。その中で興味深かったのが、レオン大使館周辺にある日系企業が多い地域で、地域内・地域同士での交流の場が近年まであまりなかったということです。メキシコシティでは、日墨協会が日系コミュニティを取りまとめていることもあり、日本フェスティバルを季節ごとに行っていますが、そのように一同が会するイベントも最近までなかったそうです。これだけの日系企業があるにもかかわらず、そうしたコミュニティが発展していないことが予想外でした。しかし、現在は少しずつ連携・交流しようという流れになってきており、今年日本フェスティバルをレオンでも行うそうです。レオン大使館がその架け橋の役目を果たしている、というお話を青山総領事から聴くことができました。

自由時間もグアナファト満喫！

2日目の午後はグアナファトを観光しました。午前中に一緒に回った日本語を勉強している学生さんと一緒にグアナファトを観光しました。学生さんが通っているグアナファト大学の構内も案内してもらいました！メキシコシティにあるメキシコ国立自治大学（以下UNAM）とは異なり、改装されたばかりだったのとてもきれいでした。また、UNAMのシンボルはタイガーですが、グアナファト大学はカエルとミツバチなのだそう。かわいいですね！そして、前は休店日で行けなかったセルビン焼きを取り扱っているお店にも行くことができました。セルビン焼きとは、グアナファト州に住む、Javier Servín氏の工房で作られている焼き物のことで、繊細な網模様とカラフルな色付けがすてきな陶器です。セルビン焼きは日本人にも人気であることから、店内はなんと広島カープのカレンダーが。そこに来店した日本人からもらったのだそう。まさか、なところに日本を身近に感じることができ、とても面白かったです。



グアナファト大学のエンブレムと
構内からみた景色←



セルビン焼きを取り扱っている、
Rincon Artesanal←

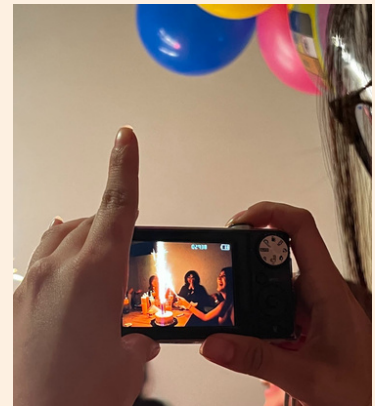
3月のきろく



ピピラ山からの
グアナファトの街並み



街並みがカラフルな
グアナファト



その日会った学生さんの
友だちの誕生日会



抹茶のConcha
(メロンパンみたいなパン)



パン付きChilaquiles、45ペソ！
安い！



おいしかったけれど
おなかを壊したタコス



インターン先の先生方と一緒に
Pozoleを食べました！



スタバにはメキシコ限定で
Chocolate Mexicanoがあります



メキシコモチーフの
クロックスアクセサリー